

第4次大崎町教育振興基本計画(R7~R11)

目標実現に向けた6つの視点

第4次大崎町教育振興基本計画の基本理念は「夢や希望をもち、大きく崎(未来)をつくる 大崎の教育」、基本目標は「主体的に学び ともに支え合い たくましい 自立力・社会力を備えた人づくり」です。今月は、基本目標の実現に向けた6つの視点を紹介します。

1 時代を超えて変わらない価値のあるものの尊重

教育には、「不易(時代を超えて変わらない価値のあるもの)」と「流行(時代の変化とともに変えていく必要があるもの)」があると言われています。個人の尊重、自律心と責任感、他人を思いやる心、公共の精神、規範意識、伝統や文化を大切にすること、幅広い教養や健やかな体などの豊かな人間性は、いつの時代の教育でも大切に育んでいかなければならないもの(「不易」)であり、施策の推進に当たって重要視されるものです。

2 社会の変化を乗り越え、未来の社会の創り手となる資質・能力の育成

これからの時代は、社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば難しい時代になると言われています。社会の変化を前向きに受け止め、デジタル化が進展する中にあっても、人間ならではの感性を働かせて、社会や人生、生活をより豊かなものにする必要(「流行」)があります。

3 生涯を通じて一人一人が幸せや生きがいを感じることでできる教育環境づくり

一人一人が幸せや生きがいを感じることができるようするためには、誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す学びを、学校をはじめとする教育機関の日常の教育活動に取り入れていく必要があります。

4 学校・家庭・地域・企業・大学・海外等の積極的な連携・協働

本町教育における学校、家庭、地域、企業・大学・海外等の役割を再度見直し、まずは、それぞれの役割を確実に果たすとともに、積極的に他に働きかけて相乗効果を高めるなど、連携や協働を図りながら施策を推進します。

5 郷土の教育的な伝統や風土の活用と未来への継承

本町には、地域住民同士の助け合いの精神や教育を大事にする伝統や風土があり、豊かな自然、歴史、地域に根ざした文化、全国に誇れる農林水産業など、教育的資源が豊富であり、地域全体で子どもたちを育てるという伝統的な地域の教育力も残っています。これらを有効活用するとともに、未来への継承を図ります。

6 教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

デジタル化には一般的に、第1段階として紙の書類をデジタル化するなどの「デジタイゼーション」、第2段階として業務プロセスをデジタル化するなどの「デジタルライゼーション」、第3段階としてデジタル化で業務、組織を変革することを目指す「デジタルトランスフォーメーション」があります。教育分野においては、第2段階への移行を着実に進め、ICTを効果的に活用した探究的な学びなどの第3段階を目指します。